

チャレンジ講座（文系第1回）を実施しました

大型連休に挟まれた5月2日（水）に今年度初回となるチャレンジ講座が実施されました。

本学経済学部の高島拓哉先生を講師に迎え、「人口減少時代の都市論：コンパクトシティとは」というテーマで行われました。

遠隔配信された大分商業、別府翔青、大分雄城台、大分西、中津南、臼杵、三重総合、安心院、高田、日田、竹田、国東及び来学の津久見、佐伯豊南、

由布、日出総合、大分東明の計17校355名が受講しました。

高島先生はまず「発展している町のイメージは？ビルや建物がたくさんあれば発展しているといえるのだろうか？」と

いう問いかけから講義を始められました。大分駅周辺では資料が揃う平成23年から28年の間に6000戸分のマンションが新築されたが、人口増加は3000人ほどで、リノベーションにより居住可能な空き家が1200戸ばかりあるといった実態が示されました。また、笹子トンネル崩落事故

を契機に行われた全国調査により改修を要するインフラは膨大で、費用面から改修ではなく不使用とするものもあることが示されました。こういった課題への対策として「コンパクトシティ」という考え方があり、これには中心部集約と市街地拡散防止があることが伝えられました。人口規模に見合った住みよい社会を構築するために取り組まなければならない課題が確認できた授業でした。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して授業がよかった」（96%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ）、「教員は真剣に取り組んでいた」（99%）、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」（96%）という結果でした。遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」（94%）、「映像はよく見えた」（84%）という結果が出ました。受講生の主な感想として、「開発される、新しいものができることが発展ではないと感じた」といったものが寄せられました。

